

平成 26 年 4 月 24 日
大阪湾港部会
日本海側拠点港部会

関西主要港湾の取り組みについて

1. 平成 25 年度の取り組み

関西の主要港湾における港湾の現況を把握するために、各主要港湾における港勢、港湾施設の規模について整理。現況分析にも続き、各港湾の利点、欠点を抽出し、今後の課題を抽出した。

【利点・欠点分析結果】

港名	利点	欠点
大阪港	<ul style="list-style-type: none"> ・背後の一大生産・消費圏と近接している。 ・東南アジア・中国をはじめとした世界主要港とのサービスが充実している。 ・西日本各地と結ばれる内航フェリー航路が充実している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出入貨物のインバランス（輸入超過）
神戸港	<ul style="list-style-type: none"> ・北米・欧州向けの基幹航路などが充実。 ・西日本諸港と結ばれる内航フィーダー航路が充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古くからの輸出港であり、貨物量が経済的な影響を受けやすい。
堺泉北港	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー基地や大規模な化学工場等が立地、バルク取扱が多い。 ・IC も近く複合一貫輸送に適している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神港に近接しているため、国際定期航路のニーズは低い。
阪南港		<ul style="list-style-type: none"> ・背後圏が極めて限定的で、輸送ニーズが低い。
姫路港 東播磨港	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー関連の輸移入、鉄鋼関連の輸移出が圧倒的に多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専用岸壁が多く、公共貨物は少ないため、港運等の運輸サービス面での選択肢は少ない。 ・周辺道路の渋滞等により、広域交通網とのアクセス実態は良くない。
尼崎西宮芦屋港		<ul style="list-style-type: none"> ・阪神港に挟まれる形であり、海上輸送面での利用ニーズが低い。
和歌山下津港 日高港	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー関連、鉱産品が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木材加工業、鉄鋼業、化学工業等の景気の影響を受けやすい ・背後圏が極めて限定的で、輸送ニーズが低い。
京都舞鶴港	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方で唯一、北海道と結ぶフェリー航路がある。 ・IC も近く複合一貫輸送に適している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・背後圏における輸出ニーズにこたえられていない。
徳島小松島港	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪湾の入口に位置している。 ・紙・パルプ関連貨物が豊富。 	<ul style="list-style-type: none"> ・背後圏は大きいですが、十分に活用できていない。
境港	<ul style="list-style-type: none"> ・紙・パルプ関連貨物が豊富。 ・施設規模は比較的充実。 ・国際フェリーが就航。 	<ul style="list-style-type: none"> ・背後圏域の人口、域内総生産などは低い水準。 ・鳥取県内でもミッシングリンク有。

【今後の課題】

- ・産業施策と一体となった物流における「関西広域圏」の魅力の創出
- ・日本海、瀬戸内海、太平洋の 3 つの海を活用した広域輸送ネットワークの構築
- ・「関西広域圏」を介するサプライチェーンのレジリエンス強化
- ・定期航路誘致等に係る港湾間連携の促進

2. 平成 26 年度の取り組み

- ・今年度については、平成 25 年度の調査結果を基に関西主要港湾の機能強化に向け、広域的港湾管理の在り方、連携施策について検討を進める。